

# 教育 広報 いわき

編集発行  
福島県教育庁  
いわき教育事務所  
発行責任者  
折笠文昭  
編集協力  
いわき市教育委員会

**復興・再生へ**  
~こころ豊かなたくましい人づくり~



## 未来を担う子どもたちのために「つなぐ教育」推進事業

この事業は、児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立と学力の向上を図り、それぞれの夢の実現や本県の未来を担う人材の育成へとつなぐために、望ましい環境づくりを、児童生徒を取り巻く学校と家庭、地域が連携・協力して取り組んでいくというものです。県内7つの管内において、計14のモデル地域で推進しております。

いわき管内では、湯本一中、湯本三中を拠点校とし、両校の学区内の3小学校を推進協力校として、全5校で事業を展開し、次のような取組が行われています。

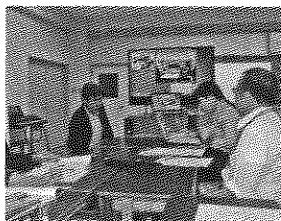
### ○小中連携による授業研究

- 小中学校それぞれの教師が授業を見せ合い、指導技術の共有化や指導の一貫性等について協議
- 小学6年生と中学1年生が一堂に会して数学の問題に挑戦する合同授業
- 中学校の英語教師とALTが小学校を訪問して英会話の練習を行う出前授業
- テレビ会議システムを活用しての授業参観や事後研究会



### ○学びの手引きやリーフレットの作成

- 小学校・中学校それぞれにおいて、児童生徒の実態を考慮した『学びの手引き10か条』を作成。授業の受け方や家庭学習の進め方についての指針として活用。
- 好ましい学習習慣や基本的な生活習慣の形成、豊かな心を育てるための家庭教育のあり



方などを各家庭に啓発するための資料として、『みんなで育てるゆもとっ子』というリーフレットを作成。常磐方部の小中学校全家庭および公民館等の公共機関へ配布し、地域をあげての望ましい環境づくりを呼びかける。



### ○教育講演会の実施

- 地域の学識経験者を活用して、小中学生や保護者へ向けての教育講演会を実施。人材育成にかける情熱や、目標を持って努力し続けることの大切さなどを、地元企業の社長さん等にお話いただいた。

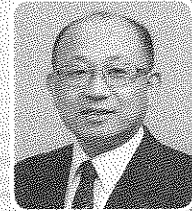
拠点校および推進協力校の校長先生方は、子ども達や先生方の様子から、確実な成長と手応えを感じていらっしゃいます。なお本事業の成果は、2月上旬の学力向上研究協議会で発表される予定です。



## 「寸感」

いわき教育事務所業務次長兼学校教育課長

伊達 多津也



E先生の印象は決して良いものではなかった。職員会議の発言や子ども達への指導は、強くそして厳しくもあり、時には威圧的に感じることもあった。特に、当時20代の私から見たE先生の指導は、「やるからには勝たせる」雰囲気は漂い、特別水泳練習や陸上大会に向けては、「何もそこまで…」的な練習の繰り返しだった。白髪交じりのその姿は「鬼」に見えたこともあった。練習中の子ども達に何度声をかけても「大丈夫です」と指導に素直に従っている姿は、私にとって不思議でならなかった。

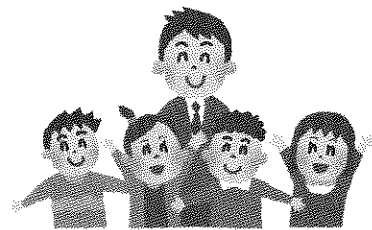
しかし、ある出来事で私の見方が一変する。水泳大会で競技を終えた子どもが満面の笑みで、先生に素直に喜びを表しているのだ。迎える先生も子どもとともに心から喜んでいるのが分かった。自分が鬼と感じた先生は、子どもにとっては「大好きな先生」であった。全くの思い違いをしていたことに気付いた。

思い返せば先生は、練習中に水分をとらせない等の非科学的根性論が主流だった時代にスポーツドリンクを用意したり、インターバル走の間には脈拍を測ったりしていた。水泳指導では、泳法の研究を怠らないなど本質を大事にした科学的指導であった。怖く見えたその瞳は十分に慈愛に満ちていたのだ。子ども達は、私などよりもE先生の真の姿を見抜いていたのである。

それ以後、私は子ども達以上に先生から多くの教をいただいた。学年は違ったが放課後教室を訪問すると親身になって話を聞いてくれた。版面の指導で悩んだ時には、自分流であると前置きして、生き生きとした児童作品を見せてくれた。先生の言葉は指導書や参考本からは学ぶことのできない指導技術の宝庫だった。以来、50才を超えた教師が常に研鑽を重ね、本質を追究し、子どもに向き合っている姿が、私の大きな目標となった。

ある時、E先生より教職員論文を書くように勧められた。独りよがりにならず自分の実践を見つめ直すよい機会になると励まされ、初めての論文をまとめた。それは、実践記録そのもので応募規格も無視した体裁。今読み返して恥ずかしく、夏休みの自由研究の域を出ないものであったが、先生からほめられたことが大きな糧となっている。

30年前、大量採用の波に乗って、教師の道を歩んだ私にとってE先生の存在は手放せない海図となっている。



## 総務社会教育たより

## 《子どもの読書活動推進研修A講座》

この講座は、読書推進ボランティアの資質向上と専門的知識・技術の向上を目的として、8月19日に開催しました。市立いわき総合図書館の取組や高校生によるミニ・ビブリオバトル、講師による読み聞かせの講習、交流会等を通じて、子どもたちが読書活動に取組める環境づくりへのヒントをいただきました。とりわけ、発表者が読んで面白いと思った本を紹介し、ディスカッションをして読みたくなった本を投票するミニ・ビブリオバトルは、読書への興味・関心を抱かせる手法として、素晴らしいと感じました。

## 《地域防災力向上支援プログラム》

この事業は、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を支援するため、昨年度から実施しています。今年度は、公民館等職員に加え、社会教育関係団体・町内会・婦人会等の皆様にも参加していただき、9月22日に基礎編、10月18日に実践編を開催しました。避難所運営のシミュレーション演習や市主催事業「防災サマーキャンプ」の実践発表、防災活動を積極的に行っている方々のパネルディスカッション等を通し、地域が一体となった防災力向上の必要性・重要性などについて、認識を深めることができました。

「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進  
小・中学校特別支援学級・通級指導教室等への支援



小中学校特別支援学級・通級指導教室等における指導支援の充実を目的として、各学校の特別支援学級や通級指導教室等が抱える課題やニーズに応じて、特別支援学校等と連携協力を図りながら、支援を行っています。

今年度は、要請があった小学校4校、中学校1校の特別支援学級に対して、いわき管内の特別支援学校3校と連携しながら取り組んできました。

常に、特別支援学級の担任の先生と連携校の教員が課題を共有し合い、「一緒に」活動することを重視しています。



実践例：湯本第一中学校特別支援学級（知的）への支援（連携校：いわき養護学校）

1 特別支援学級の課題やニーズ

「生徒が知識や技術をより育むことができる生活単元学習や作業学習を計画し、学習内容・活動を充実させたい。」

2 主な支援内容

- (1) 生活単元学習や作業学習の単元計画・学習内容の検討
- (2) 担任の先生が考える「生徒に身につけてほしい力」を整理し、それらの習得に向けた学習内容・活動と毎時間の授業展開を検討（例：時刻表等の調べ学習の具体的な授業展開等）
- (3) 作業学習の実施にあたり、特別支援学校で使用している教材・教具の貸出（例：「喫茶接客サービス」のマニュアル、デモンストラーションDVD、カフェエプロン等）

管理担当より

学校事故防止に向けた取組みをお願いします。

冬季間の交通事故防止に万全を

- 法定速度を守っていますか。
- 時間にゆとりをもって通勤していますか。
- 車間距離を十分にとって運転していますか。
- 普通タイヤで大丈夫だと過信していませんか。

学校火災事故防止に万全を

- 日々の巡視確認は確実にできていますか。
- 安全点検、防火診断はマンネリ化していませんか。
- 火気始末の重層チェックはできていますか。

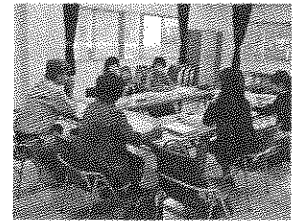
個人情報の管理に万全を

- 校内規定に従って個人情報を扱っていますか。
- 個人情報を、学校外へ持ち出していませんか。
- 個人パソコンに、個人情報は残っていませんか。

「豊かなところをはぐくみます」

「スクールソーシャルワーカー（SSW）緊急派遣事業」

この事業は、社会福祉的な観点から児童生徒の心のケア、教職員・保護者等への助言援助を行うためSSWを派遣し、当該児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようにすることを目的としています。今年度は平二中、小名浜西小、勿来高、四倉高の4校を拠点校とし、それぞれ1名のSSWを配置し、各学校の要請に応じて派遣しています。ネグレクト等の恐れがあるなど、家庭内に問題を抱える児童生徒を関係機関につなぎ、対応を進めることにより成果を上げています。また、SSWが定期的に研修を行い、情報交換するなどし、研鑽を深めています。是非SSWを積極的にご活用ください。



「道徳教育の充実～ふくしま道徳教育推進プラン～」

今年度の推進校である遠野高等学校では、「教育活動全体を通しての道徳教育の再認識化」のテーマのもと、道徳教育の充実に努めています。また、「ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集」で紹介された方をゲストティーチャーとしてお招きして講演会を開催するなど、生徒の道徳に対する関心・意欲を高めています。研究の成果は、今年度末に県教委のHPで紹介される予定です。



募集 教員免許等お持ちの方をご紹介します！

平成27年度、いわき市内の公立学校（小・中学校、高等学校）の臨時的任用教職員及び非常勤講師の希望者を募集しています。

○区分

- ①臨時的任用教職員
- ②非常勤講師

○内容

- ①欠員補充や産前産後休暇、育児休業、休職等の代替のために、臨時的に勤務する常勤の講師及び養護教諭、事務職員、栄養職員
- ②あらかじめ定められた教科の授業を行う等の非常勤の講師

問い合わせ先/いわき教育事務所管理担当  
☎0246 (24) 6216



### 新採用教員として

いわき市立平第二中学校  
教諭 楠 絵美里

初めての「社会人」、初めての「担任」、初めての「顧問」と、私にとって今年新しい出会いと発見で満ちています。1年生の担任となり、生徒たちと一緒に過ごす毎日が楽しくて仕方ありません。授業研究の前には「先生、そんなに緊張することないですよ!」と、私の方が生徒たちに勇気づけられることもしばしばです。時には上手くいかず、自分の不甲斐なさに落ち込む日もあります。しかし、その度に思う事は「これから私はまた中学1年生を担当するかもしれないけれど、この子たちにとっての中学1年生時代はたった一度である」ということです。そう考えると、授業でも部活動でも生徒指導でも常に全力で目の前の生徒たちにぶつかっていかねばという気持ちになります。嬉しい時は生徒と一緒に笑い、悔しい時には一緒に涙を流すことのできる教員を目指して、これからも生徒と共に成長していきたいと思えます。



### 「企業研修を経験して」

いわき市立泉小学校  
教諭 柴田 達八

「連れてって!」と我が子にもせがまれるスパリゾートハワイアンズで、昨年度研修をさせていただいた。遊びに行くわけでもないのに、息子には「ずるい!」と文句を言われた。それほど子どもにとってハワイアンズは魅力的な場所なのだろう。

3ヶ月の研修で、私が業務に携わったのはごくわずかな部分ではあるが、スタッフの資質を高め、収益や顧客の満足度を上げようとする、企業の努力の一端を窺うことができた。ハワイアンズのスタッフが毎日復唱しているクレド(約束)の中に「常に地域と共に歩む」というものがある。企業が自社の発展のみならず地域の発展のために力を尽くしているのならば、学校は将来のいわきを、福島を担う、力のある人間を育成するのが使命であろう。私は、今後より一層プロ意識をもち、地域に信頼される学校作りのため努力していきたい。そのためにまず、学校が子ども達にとって「行きたい」魅力的な場所であるようにしたい。

### 総務担当より

## 「児童手当について」

中学校修了前(15歳に達する日以後最初の3月31日までの間)の子を養育している方には、児童手当が支給されます。子どもの出生など、受給資格を備えたときは、その日の属する月の末日まで(月末の出生などやむを得ない場合は事実発生日から15日以内)に、認定請求書を所属担当者まで提出してください。新規認定時は、所得制限限度額の

確認のため、「所得証明書」等の提出が必要です。

### 児童手当の支給額

児童の年齢	手当額(1人あたり月額)
3歳未満	一律 15,000円
3歳以上 小学校修了前	10,000円 (第3子以降は15,000円)
中学生	一律 10,000円

※手当を受ける人の所得が所得制限限度額以上の場合は、「特例給付」として、月額一律5,000円が支給されます。

## 各種表彰(敬称略)

### ◆学校教育功労者表彰

小澤 章雄(平第一中学校長)

### ◆学校保健功労者表彰

山崎 正義(平第五小学校医)  
平井 清武(平第五小学校歯科医)

### ◆永年勤続表彰 76名

(小30名 中28名 高・特18名)

### ◆「モラル・エッセイ」コンテスト

優秀賞 太 雪乃(小名浜一中3年)  
優秀賞 大和田拓宏(いわき海星高3年)

### ◆ふくしまっ子ごはんコンテスト

最優秀賞 高橋 菜優(菊田小5年)  
優秀賞 西山 葵(大浦小1年)  
佳作 志賀 明優(小川中1年)  
アイデア賞 助川 想華(郷ヶ丘小2年)  
学校賞 小白井小、川部小、小川中

### ◆算数・数学ジュニアオリンピック

金メダル	関内 悠輝(郷ヶ丘小5年)
銀メダル	佐川 寛歩(平三小6年)
	吉野 理花(湯本一小6年)
	嵐 映月(平三中3年)
銅メダル	佐藤 伯洋(平四小6年)
	小林 優希(中央台東小6年)
	長瀬 和真(夏井小6年)
	宍戸 葵(内町小6年)
	矢吹 一真(泉北小6年)
	立花 昂樹(湯本一小6年)
	山野邊卓翔(豊間小5年)
	中村 元気(中央台北中2年)



### ◆十七字のふれあい事業

最優秀賞	石田菜々弓(小名浜一中1年)・正彦(父)
優秀賞	大友 綾乃(植田小6年)・由起恵(母)
	根本 悠平(磐崎中2年)・雅子(母)
佳作	大平 陽菜(内町小1年)・祥子(母)
	江口 実那(平三中1年)・和久(父)